

平成28年度 農林水産省 多面的機能支払交付金 事例研究会

平成28年11月1日

東京大学 弥生講堂 一条ホール

チーム ぞうだぼり
Team 雑田堀

東京都府中市

テーマ

多様な参画・連携の促進、
女性の活躍

発表者

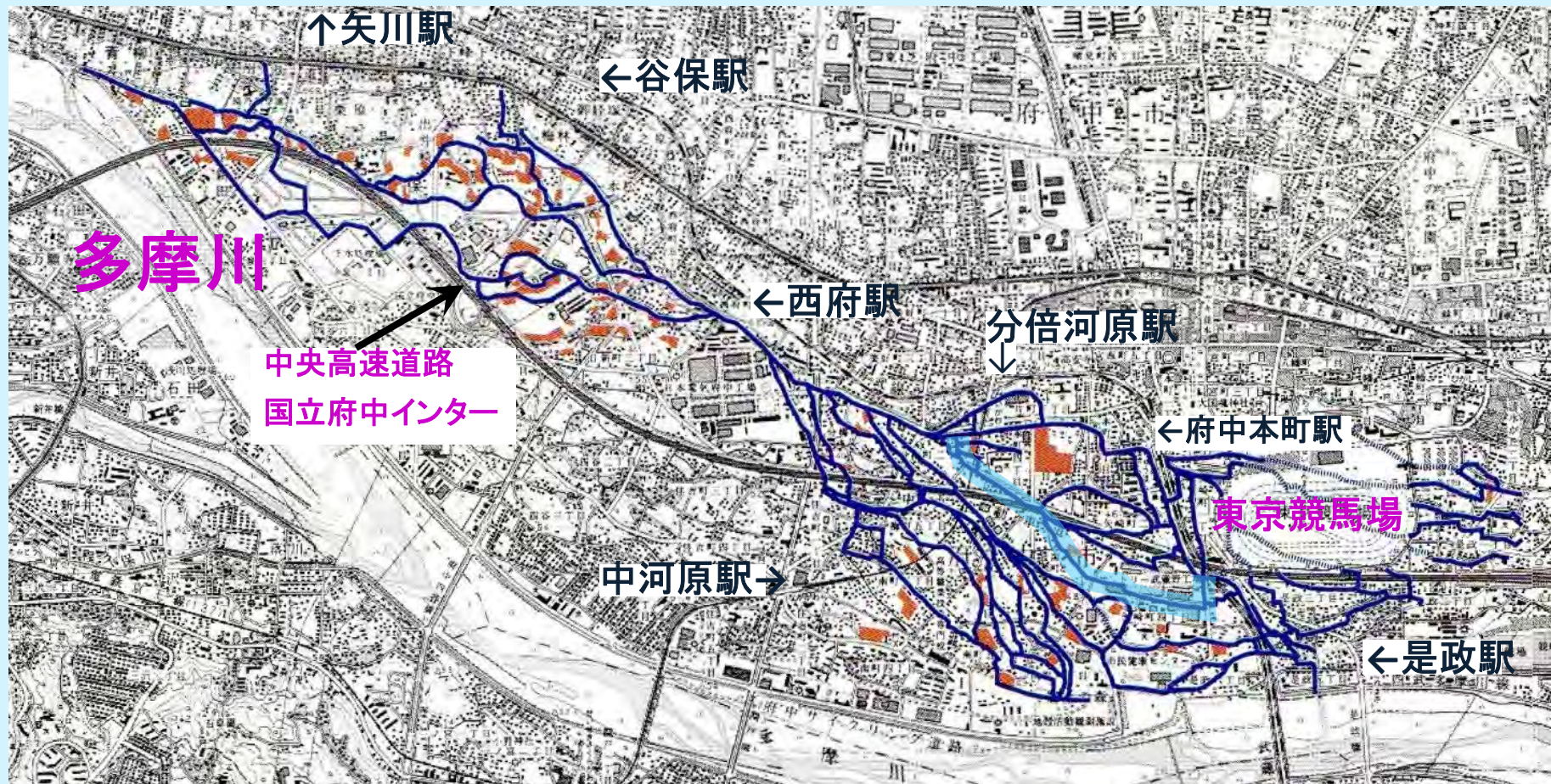
中沢身知子 (Team雑田堀 副会長)

高野 美和 (Team雑田堀 会計)

PC操作

高野 吉蔵 (Team雑田堀 会計)

雑田堀(水色)・府中用水(青色)



Team雑田堀の活動区域

用水路

水色線

用水路清掃の中心地

緑線・・・親水路

緑丸・・・ビオトープ

農地

赤点線内



農地維持活動に取り組んだきっかけ

- Team雑田堀の母体組織である「雑田堀に親しむ会」は、農地維持活動に取り組む以前から水路の清掃活動等を行っていた。
- 府中市からはこのような活動に対し、委託料が支払われていたが、市が市民協働を推し進めるなかで、こうした活動を委託業務から地域づくりのボランティア活動へと転換を図っていく方針が示された。
- こうした状況を受け、「親しむ会」は市の農政担当課に相談したところ、東京都から紹介のあった「多面的機能交付金」の導入の打診があり、取組を決定した。

1. 農業者以外と協働する 「地域資源の保全活動」 の内容

農業者以外が参加したきっかけ

①農業用水路の希少化

- ・都市化の進む府中市では、主な用水路は蓋が掛けられ、緑道や歩道などに整備済み
- ・この区間の雑田堀は、中に入って遊ぶ子どもたちの歓声が聞こえる希少な農業用水路



農業者以外が参加したきっかけ

② 地元の小学校の農業体験学習

- ・地元の小学校は、PTA や地域との連携を図りながら、自然とのふれあいや農業体験学習に先進的に取り組んで来ている。



農業者以外が参加したきっかけ

③ 用水路への思いが共通⇒活動開始

小学校教職員

- ・地域教育の研究協力校となり、「用水路と多摩川」を研究テーマとして、子どもたちに教えたい。

PTA

- ・子どもたちの遊び場を守りたい。

農業者や地域住民

- ・用水路や希少な環境を残したい。

・教職員、PTA、児童などが先導する形で清掃が始まった。

・参加者は、毎月50人位。

農業者以外が参加したきっかけ

④ 参加者に農業者以外や女性が多い・・・

・地元の小学校を中心に、PTAや地域との連携が元になって、始まったため。

活動参加者の割合

農業者：農業者以外 = 1：9
男性：女性 = 4：6
子ども：壮年：高齢 = 5：3：2

活動参加者の変化

交付金を契機に、
参加者増と多様化

地域資源の保全活動の内容

① 清掃活動・・・用水路

夏の様子



冬でも行う



地域資源の保全活動の内容

① 清掃活動・・・ビオトープ

- ・土盛りやポケットパークの草刈り
- ・ガマの刈取り
- ・ビオトープ内の植物の管理（外来種の排除）



地域資源の保全活動の内容

② 用水脇へ「日日草」の植栽活動

- ・親水路の両側に植え付け
- ・前年に採種して育てた自前の苗



地域資源の保全活動の内容

② 用水脇へ「日日草」の植栽活動

- ・効果1 ⇒ 地域資源の魅力がUPして、往来者が増加！
- ・効果2 ⇒ ごみも減った！



地域資源の保全活動の内容

③ ビオトープへ「絶滅危惧種」の移植

・府中市自然環境調査委員長や元都立植物公園長の指導



地域資源の保全活動の内容

③ ビオトープへ「絶滅危惧種」の移植

- ・府中市内の大学による移植
（大学の教育にも使用される）
- ・不明な植物は大学へ持ち込み、
同定作業をしてもらう
- ・ビオトープの野芝による防草は、
大学との相談によるもの
- ・大学から小学校へ環境教育の出前



地域資源の保全活動の内容

④流域農地で「ひまわり」栽培

- ・緑肥や景観形成を図り、地域の方々の地域資源に対する関心を高めるため、約30aに「ひまわり」を蒔く(自主事業)
- ・農業者、援農ボランティア、JAマインズが連携



Team雑田堀 の活動が、 JA広報誌 「まいんず」 で紹介され、 地域へ情報 を発信

地域の自然環境をみんなで守りたい (Team雑田堀)

府中市の矢崎小学校の近くには、地元の農業用水路である雑田堀（ぞうだほり）用水と呼ばれる水路があります。今回は、歴史ある雑田堀用水を守る活動を行っている団体「Team雑田堀」の取り組みについて紹介します。雑田堀用水は江戸時代から使用されてきた「府中用水」の支流で、都市化が進む同市において地域の子供たちが自然と触れ合いながら水遊びをすることのできる希少な場所となっています。10数年前に「雑田堀用水に親しむ会」をはじめとして、同市矢崎小学校児童・PTA・教職員・地域農業者・住民らを中心とした「雑田堀用水の清掃活動が始まった」とがきっかけとなり、10年以上毎月継続して清掃活動が行われています。昨年5月には「国の多面的機能維持制度」の利用を機に、みんなで協力しながら自然環境を維持・発展させていくことを目的として、新たに「Team雑田堀」を立ち上げました。この「雑田堀用水に親しむ会」と「Team雑田堀」の両団体の会長を務める流域農業者の高野茂久さん（69）は、「子供たちの自然を学ぶ場として、雑田堀を整備して残してほしい」という思いから、平成14年

に多くの地域住民などの署名と共に府中市議会へ請願書を提出し、平成25年には同市をはじめ関係者の協力により、土の護岸や水溜りのある「雑田堀親水公園（じょうとほり）」が完成しました。この親水公園ができたことでメダカなどの水生生物も豊かになり、子供たちの通学路や遊び場としてももちろん地域の憩いの場にもなっています。また、6月には雑田堀用水の流域農地約30ヘクタールにヒマワリの種をまき、8月下旬に満開となりました。突然現れた一面のヒマワリ畑に多くの人が撮影に訪れ、その活動を地域にPRしています。高野茂久さんは「用水を本来あるべき姿に戻すとともに地域の自然環境を守つていきたい」という思いから地域住民や行政など様々な人の協力を得てTeam雑田堀を立ち上げました。農地には防災や緊急時の避難場所など多面的機能があることを今後も地域住民に伝えていきたいです。」と意気込みます。自身も同小学校の児童だった時から清掃活動へ参加し、現在では「Team雑田堀」の広報担当として奮闘している同市の高野舞さん（17）は「小学校の時に雑田堀用水で体験した清掃活動がきっかけで地域農業に興味を持つことができました。今後も農業や環境について学び、都市農業や農業用水路の重要性について地域の理解を広め、地域全体を元気にしていきたいです。」と笑顔で話されました。



▲きれいに整備されている雑田堀用水



▲流域農地に広がるヒマワリ畑



▲水溜場にはニチニチソウを植えました



▲完成した「雑田堀親水公園（じょうとほり）」



▲高野茂久さんと高野舞さん